

共に生きて

紙面についてのご意見、感想をお寄せください。メール、ファクスで受け付けます。郵送の場合は〒810-8721(住所不要)、西日本新聞生活特報部へ。

生活特報部 FAX 092 (711) 9056 メール seikatsu@nishinippon-np.jp

小さな命のキセキ



登山 万佐子

小学校入学。親にとっても、子どもにとっても、人生の節目の一つだと思えます。

入学前の秋、各自浴体で就学前の健康診断があります。2012年秋、私も長女綾美(8)を連れて、長男(14)が通う小学校での健診に行きました。早産で、体重4.52kgで生まれた綾美を、初めて見る子どもがほとんど。車椅子を不思議そうに眺めています。

これとは別に、病院の定期健診で発達検査を受ける人も多いようです。お友達とうまくやっていたのだろうか、勉強についていけないのだろうか…。発達に遅れがある子どものための療育も必要なく順

調に成長してきた子でも、親は不安になり、低出生体重児(未熟児)の家族会に再び連絡をくださる方もいます。

早産で生まれた子には、予

小学校、心配は尽きず

定日より数カ月早く誕生したことで学年が一つ上になってしまう子もいます。学齢期になると修正月齢では考えませんから、就学猶予で入学を1年遅らせようかと迷うなど、いろいろな悩みが尽きません。

このため、小学生になった子どもたちの様子は、就学前のご家族には参考になることが多いようです。給食の量と

食べる時間、体力、宿題や習い事。入学までまだ数年あるお母さんたちも真剣に聞いていました。学年が上がると、下級生よりも体が小さいことを気にするようになったという話も出てきます。

実は、長男が小学生から仲良くしている友達に、在胎27週、750gで生まれた超低出生体重児の男の子がいま

す。体つきは小さく、細長い顔に眼鏡。入学時から「超低出生体重児かな」と思っていました。親は高学年になって「小さく生まれたからかな」と思うことがあったそうです。視力や筋力の問題など見た目では分かりにくく、教師にすら理解してもらえない悩みをよく話してくれました。「低出生体重児についてはよく知らないお母さんには話せなかった」と言われまし

状況によって特別支援学校に入学する子もいます。娘の場合も、視力が弱く、車椅子を使っているため、視覚特別支援学校や特別支援学校も選択肢の一つでした。でも、長男や保育所のお友達と同じ小学校に通わせたいと考え、地元の小学校の特別支援学級を選びました。入学の何年も前から、市にエレベーターと体が不自由な子どものクラスができるようお願いして、無事に入学式を迎えました。



小学校の入学式当日の綾美さん

入学当時は、体が小さくて、立てず、歩けない娘のことを「何歳?」と真剣に聞く同級生が少なくありませんでした。年下にしかならなかったのでしょう。そんな娘も今、小学3年生。相変わらず体は小さいですが、さまざまな面でぐんと成長しています。(「N」子クラブ カンガルーの親子」代表、福岡県筑紫野市)